

# 技術・家庭科 年間指導計画（1年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基盤となる資質・能力					現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力									
		<言語能力>					<自分づくり>									
小中で教科と関連付けた 資質・能力		豊かな表現を工夫する力 相手の思いを受け止めて聞く力 伝え合うことで自分の考えを深化させる力		事実等を解釈し自分の考えを形成する力 感じたことを言葉にする力 互いの考えの違いへの気付き			伝え合うことで自分の考えを深化させる力 メタ認知する力 主体性・積極性		意思決定する力 自分らしさを発揮しようとする姿勢 基本的な生活習慣をつくる態度							
技術・家庭科と関連付けた 資質・能力		考えの妥当性や信頼性を吟味する力 言語で正確に伝える力 事実等を正確に理解する力		他者に的確に分かりやすく伝える力 目的や意図に応じて伝えるべきことを整理する力			よりよい社会を創る態度 共生社会を形成しようとする意識 様々な情報を活用・選択する力		主体的に社会参画する姿勢 地域に貢献する姿勢 課題に対応する力							
学習指導要 領における目 標	知識及び技能	(技) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。 (家) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。														
	思考力、判断力、表現力等	(技) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。 (家) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。														
	学びに向かう力、人間性等	(技) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。 (家) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。														
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計				
<b>技術分野</b>	技術分野の ガイダンス		材料と加工の原理・原則と仕組み【A(1)アイ】		情報の技術の原理・法則と仕組み【D(1)アイ】		材料と加工の技術による問題解決【A(2)アイ】			社会の発展と材料と加工の 技術【A(3)アイ】		<b>35</b>				
配当時間	2		7		8		16			2						
資質・能力の 三つの柱	知識及び技能	○主な材料や加工についての理解 ○材料の製造方法や成形方法などの基礎的な技術の仕組みの理解			○情報の表現や通信などについての理解 ○情報のデジタル化や情報セキュリティなどに関わる基礎的な技術の仕組みの理解			○製作に必要な図を描き、安全・適切な製作や検査・点検等ができる技能			○生活や社会に果たす役割や影響に基づいた材料と加工の技術の概念の理解		知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等			
	思考力、判断力、表現力等	○材料と加工の技術に込められた工夫を読み取る力 ○材料と加工の技術の見方・考え方の気付き			○情報の技術に込められた工夫を読み取る力 ○情報の技術の見方・考え方の気付き			○材料と加工の技術の見方・考え方を働かせて課題を設定し解決できる力			○よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて材料と加工の技術の評価・応用などする力					
	学びに向かう力、人間性等	○進んで材料と加工の技術と関わって理解し技能を身に付けようとする態度			○進んで情報の技術と関わって理解し技能を身に付けようとする態度			○自分なりの新しい考え方や捉え方によって解決策を構想しようとする態度 ○自らの問題解決の過程がよりよくなるよう改善・修正しようとする態度			○よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて材料と加工の技術を工夫・創造する力					
学習内容		○技術分野の学習の見通し ○学習内容の紹介		○身の回りの材料と加工の技術 ○木材・金属・プラスチックの特性 ○材料に適した加工方法 ○丈夫な製品を作るために ○材料と加工の技術の工夫の読み取り		○情報の技術とは ○身の回りの情報技術 ○コンピュータの仕組み ○情報のデジタル化		○情報通信ネットワークの仕組み ○情報セキュリティの仕組み ○情報モラル ○情報の技術の問題解決の工夫		○問題の発見・課題の設定 ○製作の計画 ○製作品の構想・設計 ○製図		○製作の計画 ○作業手順を考えた製作 ○問題解決の評価・改善・修正		○材料と加工の技術の最適化 ○これからの材料と加工の技術		学習内容
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計				
<b>家庭分野</b>	家庭分野のガイダンス 自分の成長と家族・家庭生活【A(1)ア】 家庭生活と地域のかかわり【A(3)ア(アイ)イ】		目的に応じた衣服の選択【B(4)ア(ア)イ】 日常着の手入れと保管【B(4)ア(イ)イ】 生活を豊かにするものの製作【B(5)アイ】 持続可能な衣生活【B(4)、(5)】		住まいのはたらきとこころよさ【B(6)ア(ア)】 安全な住まいで安心な暮らし【B(6)ア(イ)イ】 持続可能な住生活【B(6)】		生活の課題と実践【A(4)、 B(7)】		20		6		<b>35</b>			
配当時間	7		7		20		6		2							
資質・能力の 三つの柱	知識及び技能	○家族・家庭の基本的な機能について理解するとともに、家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付くこと。 ○家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、介護や高齢者との関わり方について理解すること。			○衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解すること。 ○衣服の計画的な活用や必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできること。 ○製作する物に適した材料や縫い方について理解し、用具を安全に取り扱い、製作が適切にできること。			○家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解すること。 ○家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解すること。			知識及び技能					
	思考力、判断力、表現力等	○家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫すること。			○衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方を考え、工夫すること。 ○資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫すること。			○家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫すること。			○家族、幼児の生活又は地域の生活の中から課題を見いだして課題を設定し、その解決に向けてよりよい生活を考え、計画を立てて実践できること。 ○衣生活、住生活の中から課題を見いだして課題を設定し、その解決に向けてよりよい生活を考え、計画を立てて実践できること。		思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等			
	学びに向かう力、人間性等	○家庭生活を工夫し創造しようとする実践的な態度。 ○地域の人々と関わり、協働しようとする態度。			○衣生活を工夫し創造しようとする実践的な態度。 ○衣生活における日本の生活文化を継承しようとする態度。			○住生活を工夫し創造しようとする実践的な態度。 ○住生活における日本の生活文化を継承しようとする態度。			○家庭生活を工夫し創造しようとする実践的な態度。 ○家庭生活を支える一員として生活をよりよしくする態度。 ○地域の人々と関わり、協働しようとする態度。					
学習内容	○家庭分野のガイダンス ○今の自分とこれまで ○わたしの生活と家族・家庭 ○家庭を支える社会 ○中学生にとっての家族		○家庭生活と地域での活動 ○多様な人びとが暮らす地域 ○地域に暮らす高齢者 ○高齢者とのかかわり		○衣服で伝わるメッセージ ○自分らしくコーディネート ○つなげよう和服の文化 ○上手な衣服の選択 ○まかせて衣服の手入れ		○布の繊維に応じた手入れ ○めざそう洗濯名人 ○補修や収納・保管 ○布による作品で生活を演出・製作の基礎・基本 ○持続可能な衣生活をめざして		○住まいのはたらき ○住まいの空間 ○家庭内事故への備え ○災害への備え ○持続可能な住生活をめざして		○生活の課題と実践			学習内容		

# 技術・家庭科 年間指導計画（2年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基盤となる資質・能力					現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力						
		＜言語能力＞					＜自分づくり＞						
小中で教科と関連付けた 資質・能力		豊かな表現を工夫する力 相手の思いを受け止めて聞く力 伝え合うことで自分の考えを深化させる力		事実等を解釈し自分の考えを形成する力 感じたことを言葉にする力 互いの考えの違いへの気付き			伝え合うことで自分の考えを深化させる力 メタ認知する力 主体性・積極性		意思決定する力 自分らしさを発揮しようとする姿勢 基本的な生活習慣をつくる態度				
技術・家庭科と関連付けた 資質・能力		考えの妥当性や信頼性を吟味する力 言語で正確に伝える力 事実等を正確に理解する力		他者に的確に分かりやすく伝える力 目的や意図に応じて伝えるべきことを整理する力			よりよい社会を創る態度 共生社会を形成しようとする意識 様々な情報を活用・選択する力		主体的に社会参画する姿勢 地域に貢献する姿勢 課題に対応する力				
学習指導要 領における目 標	知識及び技能	（技）生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。 （家）家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。											
	思考力、判断力、表現力等	（技）生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。 （家）家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。											
	学びに向かう力、人間性等	（技）よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。 （家）自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。											
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計	
<b>技術分野</b>	生物育成の技術の原理・法則と仕組み【B(1)アイ】 生物育成の技術による問題解決【B(2)アイ】		社会の発展と生物育成の技術【B(3)アイ】		エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み【C(1)アイ】		エネルギー変換の技術による問題解決【C(2)アイ】		社会の発展とエネルギー変換の技術【C(3)アイ】		双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決【D(2)アイ】	<b>35</b>	
配当時間	8		2		8		9		2		6		
資質・能力の 三つの柱	知識及び技能	○作物、動物及び水産生物の成長、生態についての科学的な原理・法則の理解 ○生物の育成環境を調整する方法などの基礎的な技術の仕組みの理解		○生活や社会に果たす役割や影響に基づいた生物育成の技術の概念の理解		○電気、運動、熱などについての科学的な原理・法則の理解 ○エネルギーの変換や伝達などに関わる基礎的な技術の仕組みの理解		○安全・適切な制作、実装、点検及び調整等ができる技能		○生活や社会に果たす役割や影響に基づいたエネルギー変換の技術の概念の理解 ○安全・適切なプログラムの制作や動作の確認ができる技能		知識及び技能	
	思考力、判断力、表現力等	○生物育成の技術に込められた工夫を読み取る力 ○生物育成の技術の見方・考え方の気付き ○生物育成の技術の見方・考え方を働かせて、問題を見いだして課題を設定し解決できる力		○よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、生物育成の技術を評価し、適切に選択、管理・運用したり、新たな発想に基づいて改良、応用したりする力		○エネルギー変換の技術に込められた工夫を読み取る力 ○エネルギー変換の技術の見方・考え方の気付き		○エネルギー変換の技術の見方・考え方を働かせて、問題を見いだして課題を設定し解決できる力		○よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、エネルギー変換の技術を評価し、適切に選択、管理・運用したり、新たな発想に基づいて改良、応用したりする力		思考力、判断力、表現力等	
	学びに向かう力、人間性等	○進んで生物育成の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとする態度 ○自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとする態度 ○自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとする態度		○よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、生物育成の技術を工夫し創造してこうとする態度		○進んでエネルギー変換の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとする態度		○自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとする態度 ○自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとする態度		○よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、エネルギー変換の技術を工夫し創造してこうとする態度		学びに向かう力、人間性等	
学習内容	○生物育成の技術とは ○作物の育成環境を調整する技術 ○作物の成長を管理する技術 ○動物を育てる技術 ○水産物を育てる技術		○生物育成の技術の工夫の読み取り ○問題の発見、課題の設定 ○生物育成の技術の最適化 ○これからの生物育成の技術		○エネルギー変換の技術とは ○発電の仕組みと特徴 ○電気を供給する仕組み ○電気回路について考えよう		○電気機器を安全に使用するための技術 ○運動エネルギーへの変換と利用 ○回転運動を伝える仕組み ○機械が動く仕組み ○機械の共通部品と保守点検の大切さ ○エネルギー変換の技術の工夫の読み取り		○問題の発見、課題の設定 ○電気回路または機構モデルの設計・制作 ○問題解決の評価、改善・修正		○問題の発見・課題の設定 ○コンテンツの構想 ○コンテンツのプログラムの制作	学習内容	
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計	
<b>家庭分野</b>	食事の役割と食習慣【B(1)ア(ア)イ、(2)ア(ア)】 中学生に必要な栄養を満たす食事【B(1)ア(イ)、(2)ア(イ)】 献立づくり【B(2)ア(イ)】 持続可能な食生活【B(1)、(2)、(3)】					家庭生活と消費【C(1)アイ】 購入支払いと生活情報【C(1)アイ】 消費者被害と自立【C(2)アイ】 持続可能な社会【C(1)、(2)】		生活の課題と実践【B(7)、C(3)】		幼児の生活と家族【A(2)ア(ア)】 幼児とのかかわり【A(2)ア(イ)】 持続可能な家庭生活を目指して【A(1)、(2)、(3)】		<b>35</b>	
配当時間	18					11		2		4			
資質・能力の 三つの柱	知識及び技能	○生活の中で食事が果たす役割について理解すること。 ○中学生に必要な栄養の特徴が分かり、健康に良い食習慣について理解すること。 ○栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的特質について理解すること。 ○中学生の1日に必要な食品の種類と概量が分かり、1日分の献立作成の方法について理解すること。					○購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画を立てる責任の所在について理解すること。 ○売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできること。 ○消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。		○長生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けてよりよい生活を考え、計画を立てて実践できること。 ○自分や家族の消費生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて環境に配慮した消費生活を考え、計画を立てて実践		○幼児の発達と生活の特徴が分かり、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解すること。 ○幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解すること。		知識及び技能
	思考力、判断力、表現力等	○健康に良い食習慣について考え、工夫すること。 ○中学生の1日分の献立について考え、工夫すること。					○物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫すること。 ○身近な消費生活について、自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫すること。		○身近な消費生活と環境について工夫し創造しようとする実践的な態度。		○幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。 ○家庭生活を支える一員として生活をよりよくしようとする態度。		思考力、判断力、表現力等
	学びに向かう力、人間性等	○食生活を工夫し創造しようとする実践的な態度。 ○食生活における日本の生活文化を継承しようとする態度。					○身近な消費生活と環境について工夫し創造しようとする実践的な態度。		○身近な消費生活と環境について工夫し創造しようとする実践的な態度。		○家庭生活を支える一員として生活をよりよくしようとする態度。		学びに向かう力、人間性等
学習内容	○食事の役割 ○健康に良い食習慣 ○中学生の発達に必要な栄養 ○栄養素のはたらきと6つの基礎食品群 ○栄養バランスを目で見て判断					○消費生活のしくみ ○家庭生活における収入と支出 ○いろいろな購入方法 ○購入前に知っておくこと ○いろいろな支払方法 ○情報を活用した上手な購入		○なくならない消費者被害 ○消費者を支えるもの ○消費者の権利と責任 ○消費行動が社会に与える影響 ○消費行動が環境に与える影響 ○世界の国々と連帯した持続可能な生活の創造へ		○生活の課題と実践		学習内容	

# 技術・家庭科 年間指導計画（3年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基盤となる資質・能力					現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力								
		＜言語能力＞					＜自分づくり＞								
小中で教科と関連付けた 資質・能力		豊かな表現を工夫する力 相手の思いを受け止めて聞く力 伝え合うことで自分の考えを深化させる力	事実等を解釈し自分の考えを形成する力 感じたことを言葉にする力 互いの考えの違いへの気付き	伝え合うことで自分の考えを深化させる力	意思決定する力 自分らしさを発揮しようとする姿勢 基本的な生活習慣をつくる態度										
技術・家庭科と関連付けた 資質・能力		考えの妥当性や信頼性を吟味する力 言語で正確に伝える力 事実等を正確に理解する力	他者に的確に分かりやすく伝える力 目的や意図に応じて伝えるべきことを整理する力	よりよい社会を創る態度 共生社会を形成しようとする意識 様々な情報を活用・選択する力	主体的に社会参画する姿勢 地域に貢献する姿勢 課題に対応する力										
学習指導要 領における目 標	知識及び技能	（技）生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。 （家）家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。													
	思考力、判断力、表現力等	（技）生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。 （家）家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。													
	学びに向かう力、人間性等	（技）よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。 （家）自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。													
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計			
<b>技術分野</b> <b>家庭分野</b>	情報の技術の原理・法則と仕組み【D(1)アイ、D(2)ア】 さまざまな食品とその選択【B(3)ア(ア)】 非常食の調理【B(3)ア(イ)(ウ)イ】 地域の食文化【B(3)ア(エ)】		双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決【D(2)アイ】 幼児の生活と家族【A(2)ア(ア)】 幼児とのかかわり【A(2)ア(イ)】 持続可能な家庭生活を目指して【A(1)、(2)、(3)】 ※状況によって調理実習がずれ込む場合があります。				計測・制御のプログラミングによる問題解決【D(3)アイ】 社会の発展と情報の技術【D(4)アイ】 生活の課題と実践【A(4)】			3年間の振り返り		35			
配当時間	4		18				10			3					
資質・能力の 三つの柱	知識及び技能	○情報通信ネットワークの構成と、情報を利用するための基本的な仕組みの理解 ○安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバック等ができる技能 ○日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解し、適切にできること。 ○食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理について理解し、適切にできること。 ○材料に適した加熱調理の仕方について理解し、基礎的な日常食の調理が適切にできること。 ○地域の食文化について理解し、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできること。		○情報の表現や通信などについての理解 ○情報のデジタル化や情報セキュリティなどに関わる基礎的な技術の仕組みの理解 ○幼児の発達と生活の特徴が分かり、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解すること。 ○幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解すること。				○計測・制御システムの仕組みの理解 ○安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバック等できる技術 ○生活や社会に果たす役割や影響に基づいた情報の技術の概念の理解			知識及び技能		資質・能力の 三つの柱		
	思考力、判断力、表現力等	○情報の技術の見方・考え方を働かせて、問題を見いだして課題を設定し解決できる力 ○日常の1食分の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること。		○情報の技術に込められた工夫を読み取る力 ○情報の技術の見方・考え方の気付き ○幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。				○情報の技術の見方・考え方を働かせて、問題を見いだして課題を設定し解決できる力 ○よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、情報の技術の評価し、適切に選択、管理・運用したり、新たな発想に基づいて改良、応用したりする力 ○家族、幼児の生活又は地域の生活の中から問題を見い出して課題を設定し、その解決に向けてよりよい生活を考え、計画を立てて実践できること。			思考力、判断力、表現力等				
	学びに向かう力、人間性等	○自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとする態度 ○自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとする態度		○進んで情報の技術と関わって理解し技能を身に付けようとする態度 ○家庭生活を支える一員として生活をよりよくしようとする態度。				○自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとする態度 ○自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとする態度 ○よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、情報の技術を工夫し創造してこうとする態度 ○家庭生活を工夫し創造しようとする実践的な態度。 ○家庭生活を支える一員として生活をよりよくしようとする態度。 ○地域の人々と関わり、協働しようとする態度。			学びに向かう力、人間性等				
学習内容	○情報のデジタル化 ○情報通信ネットワークの仕組み ○安全に利用するための情報セキュリティ ○生鮮食品の選択と保存 ○加工食品の選択 ○食品の安全と情報 ○調理の計画		○おいしさ調理 ○ますます好きになる肉の調理 ○こまなおいしい魚の調理 ○好きになる野菜の調理 ○地域の食文化 ○1日分の献立 ○持続可能な食生活をめざして		○幼児のこころと今の自分 ○幼児の体の発達 ○幼児の心の発達 ○発達にとってのおとなの役割 ○遊びが必要なわけ ○遊びを支える環境				○計測・制御システムとは ○問題の発見、課題の設定 ○計測・制御システムの構想 ○計測・制御システムのプログラムの制作 ○問題解決の評価、改善・修正			○情報の技術の最適化 ○これからの情報の技術 ○生活の課題と実践		○SDGsと技術とのかかわり ○学んだことを社会に生かす	学習内容

# 技術・家庭科 年間指導計画（橋中学校）

月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計
<b>1年技術</b>	技術分野のガイダンス	材料と加工の原理・原則と仕組み【A(1)アイ】		情報の技術の原理・法則と仕組み【D(1)アイ】		材料と加工の技術による問題解決【A(2)アイ】				社会の発展と材料と加工の技術【A(3)アイ】	35	
配当時間	2	7		8		16				2		
<b>1年家庭</b>	家庭分野のガイダンス 自分の成長と家族・家庭生活【A(1)ア】 家庭生活と地域のかかわり【A(3)ア(イ)(イ)】		目的に応じた衣服の選択【B(4)ア(ア)イ】 日常着の手入れと保管【B(4)ア(イ)イ】 生活を豊かにするものの製作【B(5)アイ】 持続可能な衣生活【B(4)、(5)】		住まいのはたらきとこころよさ【B(6)ア(ア)】 安全な住まいで安心な暮らし【B(6)ア(イ)イ】 持続可能な住生活【B(6)】		生活の課題と実践【A(4)、B(7)】		35			
配当時間	7		20		6		2					
<b>2年技術</b>	生物育成の技術の原理・法則と仕組み【B(1)アイ】 生物育成の技術による問題解決【B(2)アイ】		社会の発展と生物育成の技術【B(3)アイ】	エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み【C(1)アイ】		エネルギー変換の技術による問題解決【C(2)アイ】		社会の発展とエネルギー変換の技術【C(3)アイ】	双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決【D(2)アイ】		35	
配当時間	8		2	8		9		2	6			
<b>2年家庭</b>	食事の役割と食習慣【B(1)ア(ア)イ、(2)ア(ア)】 中学生に必要な栄養を満たす食事【B(1)ア(イ)、(2)ア(イ)】 献立づくり【B(2)ア(イ)】 持続可能な食生活【B(1)、(2)、(3)】		家庭生活と消費【C(1)アイ】 購入支払いと生活情報【C(1)アイ】 消費者被害と自立【C(2)アイ】 持続可能な社会【C(1)、(2)】		生活の課題と実践【B(7)、C(3)】		幼児の生活と家族【A(2)ア(ア)】 幼児とのかかわり【A(2)ア(イ)】 持続可能な家庭生活を目指して【A(1)、(2)、(3)】		35			
配当時間	18		11		2		4					
<b>3年技家</b>	情報の技術の原理・法則と仕組み【D(1)アイ、D(2)ア】 さまざまな食品とその選択【B(3)ア(ア)】 非常食の調理【B(3)ア(イ)(ウ)イ】 地域の食文化【B(3)ア(エ)】		双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決【D(2)アイ】 幼児の生活と家族【A(2)ア(ア)】 幼児とのかかわり【A(2)ア(イ)】 持続可能な家庭生活を目指して【A(1)、(2)、(3)】		計測・制御のプログラミングによる問題解決【D(3)アイ】 社会の発展と情報の技術【D(4)アイ】 生活の課題と実践【A(4)】		3年間の振り返り		35			
配当時間	4		18		10		3					